

お茶の水女子大 新フンボルト入試スタート！

難関国立大での新入試、相次ぐ

旺文社 教育情報センター 28年8月19日

難関国立大でも「新たな」推薦・AO入試の導入が続いている。28年度入試では東京大が「推薦入試」、京都大が「特色入試」を新規実施、これから実施される29年度入試では、大阪大の「世界適塾入試」、お茶の水女子大の「新フンボルト入試」が控えている。

これらは現在、国で議論されている入試改革を先取りしたものと見えよう。各大学に共通した特長は、独特な「多面的な評価」を行うという点、学力だけではなく、思考力や主体性などを評価していく点、そしてその求める水準が非常に高いという点だ。

ここではお茶の水女子大の「新フンボルト入試」に注目し、新たな大学入試のヒントを探ってみよう。

●新フンボルト入試とは

お茶の水女子大では、これまでもAO入試を実施してきた。今年度からその内容を一新、名称も「新フンボルト入試」とし、新型AO入試として実施する。第1次選考を兼ねるプレゼミナールと第2次選考を数日かけて行う、二段構えのユニークなAO入試である。新たな入試の目的、その特徴について、同大学入試推進室長の安成英樹教授にお話を伺った。

大学入試というのは人生の大きな節目だと言えますが、それは長い人生のなかのひとつの通過点に過ぎません。大学に入った後には、厳しくも楽しい大学での学びが待っています。

今年度からお茶の水女子大がはじめる新型AO入試（新フンボルト入試）は、高校生の皆さんにいち早く大学の学問世界とお茶の水女子大の学風を体感してもらったうえで（第1次選考＝プレゼミナール）、高校生の皆さんの持つ潜在的な能力、とりわけ探究する力、思考する力を評価し（第2次選考＝「図書館入試」「実験室入試」）、そうしたポテンシャルを豊かに持った方を本学に迎え入れたいと考えています。

従来の入試で重視されてきた知識の多寡を問うのではなく、その知識をいかに自分の思考の糧として使いこなすことができるかを問う入試です。誤解を怖れずに言えば、合否にかかわらず受験してよかったと思える入試、今後の勉学に資する何かを得られるような入試を目指したいと思います。

それでは次に、新フンボルト入試とは具体的に、どのような入試なのだろうか。ここからは入試の内容を詳しく見ていこう。

新フンボルト入試

【出願期間】 平成28年8月29日(月)～9月1日(木)【必着】
【募集人員】 全学で20名以内
【合格発表】 第1次選考:10月3日(月)
第2次選考:10月24日(月)

【選考方法】

プレゼミナール

9月24日(土)・25日(日) ※受験者は24日のセミナー受講必須

【初日】・文系、理系に分かれたセミナーを受講、受験者は30分程度でレポート作成
(高校2年生およびAO受験者でない3年生もセミナーの受講可能)
レポート作成終了後、文系受験者は附属図書館の館内見学が可能(希望者のみ)
【2日目】・文系向け「図書館情報検索演習」午前、午後の2回実施
(高校2年生、AO受験者でない3年生が対象、AO受験者は受講不可)
・理学部生物学科志望者向け「大学院生による研究ポスター発表」「自主研究課題相談会」
(午後の自主研究課題相談会はAO受験者の参加不可)
2日目の企画については、上記に加えて高校教員も参観できる

第1次選考

・プレゼミナール時のレポート、志望理由書、活動報告書、外国語検定試験成績等を総合的に評価
・理学部生物学科受験者は出願時に自主研究発表のポスターを提出

第2次選考

10月15日(土)・16日(日) ※理系は15日のみ

【文系】図書館入試

《文教育学部、生活科学部人間生活学科》

1日目:附属図書館で館内資料等を自由に参照してレポート作成 2日目:グループ討論、面接

【理系】実験室入試

《理学部数学科、物理学科、化学科、情報科学科》

実験、実験演示や実験データをもとにして考察する、黒板などを使って考え方を説明するといった課題を通し、思考力や探究力等をみる専門性のある試験を課す

《理学部生物学科》

自主研究のポスター発表を課す。ポスター発表を中心に、これまでの高校での取組みを評価

《生活科学部人間・環境科学科、食物栄養学科》

ポスター発表に加えて質疑応答を課す。食物栄養学科はさらに個人面接も課す。

両学科とも、自主研究のテーマは自由。ポスターは試験当日に持参

※入試合格者には、所属する学科が指定する29年度大学入試センター試験の受験が必須。
※具体的な出願要件等は学生募集要項を参照。

●第1次選考につながる「プレゼミナール」

「プレゼミナール」の初日には「セミナー受講」がある。新フンボルト入試の受験者は参加が必須で、セミナー受講後に30分程度でレポートを作成する。このレポートは第1次選考でそのほかの提出書類とともに判定に使われる。

なお、プレゼミナールの2日目には、「図書館情報検索演習」と、理学部生物学科志望者向けの、「大学院生による研究ポスター発表」「自主研究課題相談会」が用意されている。

図書館情報検索演習は受験者の受講はできないが、高校2年生や受験者以外の高校3年

生、高校教員を対象としている。図書館入試の模擬演習のようなものなので、次年度の受験を検討しているなら、参加しておくといだろう。



耳塚寛明教授による昨年度開講のオープニングレクチャー（基調講義）「格差に迫る」



昨年度の「図書館情報検索演習」の様子

28年度プレゼミナールのテーマは以下のとおりで、受験者は下表のいずれかを受講してレポートを作成する。各セミナーは、実際に大学で開講されている講義と同レベルの内容である。

| 28年度プレゼミナールのセミナー概要 | |
|---|--|
| 文系 | 理系 |
| <p>セミナー1 わたしたちはなぜそのように考えているのか</p> <p>セミナー2 日本とイスラム世界：交流と比較の視点から</p> <p>セミナー3 論理的な文章とはどのようなものか</p> <p>セミナー4 被害の記憶と加害の記憶：錯綜するナショナル・メモリー</p> <p>セミナー5 どうしたら子どもは支援されるのか：子どもを支える臨床心理学</p> | <p>セミナーA(生活科学部人間・環境科学科) 生活工学への誘い</p> <p>セミナーB(生活科学部食物栄養学科) 食行動の変容～教育的アプローチと環境的アプローチ～</p> <p>セミナーC(理学部数学科) 余弦定理と非ユークリッド幾何学</p> <p>セミナーD(理学部物理学科) 簡単な法則の不思議な運動</p> <p>セミナーE(理学部物理学科) ナノスケールの物理</p> <p>セミナーF(理学部化学科) 分子から見た香り</p> <p>セミナーG(理学部生物学科) 食品アオサ・アオノリ類のDNA鑑定</p> <p>セミナーH(理学部生物学科) 生物数千万年の歴史解析</p> <p>セミナーI(理学部情報学科) コンピュータグラフィックスを体験する</p> |

つまり、第1次選考（セミナーレポート等）では、高校での活動や志望理由等に加えて、大学の講義を体験してもらい、受験者に理解力、学んだことを簡潔に整理できる思考力や表現力といった能力が備わっているかをみているのだ。

受験者にとって気になるのが、セミナーの難易度だろう。お茶の水女子大ではすでに昨年からはプレゼミナールは実施しており、受講者にアンケートを取っている。これを見る限り、セミナーの内容そのものは難解というわけではなさそうだ。

【前年度プレゼミナール実施アンケート】

(プレゼミナール参加者計 261 名、文系セミナー受講者 118 名、理系セミナー受講者 143 名)

- ・ 8 割以上の受講者が「セミナーでの教員の説明は、とてもわかりやすかった」と回答。
- ・ 文系＝約 6 割、理系＝約 7 割の受講者が「セミナーの内容をとても理解できた」と回答。

ここまでの、プレゼミナールから第1次選考までの流れだ。この後に、AO入試のメインとなる「図書館入試」「実験室入試」が続く。そしてこのふたつの選考こそ、多面的な評価をねらいとする独自の入試であると言える。

●注目の第2次選考「図書館入試」「実験室入試」

第2次選考は、文系と理系で内容が異なっている。

【文系】 図書館入試

- ・1日目：附属図書館で課題についてのレポートを長時間かけて作成する。その際、図書館内の資料、電子ジャーナル等を自由に参照できる。
- ・2日目：1日目に作成したレポートをもとにグループ討論と面接が行われる。

【理系】 実験室入試

- ・学部、学科によって内容が異なり、思考力や探究力等をみる専門性のある試験課題や自主研究のポスター発表等を課す。

資料を駆使して調べさせたり実験的な要素を加味した課題を課したりすることで、自分なりの答えを探究し、それを他者に伝えられるかを、また、これまでいかに主体的に興味のある分野を学んできたかをみている。さらに、いずれも、単に知識量を問うのではなく、知識をいかに「応用」できるかを問うているのだ。

すでに決まっている解を答えさせる従来の試験ではない、新たな目線から、受験者の能力を見定めようとする入試と言えよう。

●新フンボルト入試を通して考える、これからの大学入試

文部科学省は有識者会議である「高大接続システム改革会議」にて、28年3月末に「最終報告」を取りまとめた。高校教育、大学教育、そして大学入学者選抜の三位一体の改革を目指したもので、そのねらいは、第一に「学力の3要素」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性」を定着させることだ。

大学入試での最大のポイントは、特に2点目の「思考力・判断力・表現力」と、3点目の「主体性」をいかに課すか、評価するか、ということになるろう。

お茶の水女子大の新フンボルト入試では、第1次選考の提出書類で高校時代の活動や、大学入学後の意欲、セミナーレポートで大学の講義への適応力が評価され、第2次選考の「図書館入試」「実験室入試」では主体的に探究に取り組む過程が評価される。まさに学力の3要素をしっかりみていく入試方式と言えよう。

今後、各大学は選抜方法の見直しや新入試の導入といった入試変更を続々と行っていくことが予想される。学力の3要素を多面的に評価していくうえで各大学がこれからどのようなオリジナリティのある、多彩な入試を実施していくのか、注目である。